

楽しみにしていた今日の御言葉の学びに入りましょう。ピリピ3章17-19節です。

使徒パウロは聖霊によって、ピリピの教会に書いています。

### ピリピ3:17-19

17 兄弟たち。私に倣う者となってください。

また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。

18 というのは、私はたびたびあなたがたに言ってきたし、今も涙ながらに言うのですが、多くの人がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。

19 その人たちの最後は滅びです。

彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです。

では、神が私たちの理解を導いて下さるように一緒に祈りましょう。

愛する天のお父様、この時間、私たちの心を落ち着かせ、集中できるように、どうか導いて下さい。

あなただけが聖霊によって、どんなことにも気が散らないように、私たちを集中させて下さいます。

それが出来るのはあなただけです。

主よ、あなたが今日導いて下さることを、何ひとつ見逃したくありません。

そのためにここにいる私たちに、静かな小さな声で語りかけて下さり、御言葉を通して、私たちの心を祝福して下さい。

主よ、私たちはあなたを喜ばせ、あなたとあなたの心を祝福したいのです。

御言葉をただ聞くだけの者ではなく、実行する者になりたいです。

ですから主よ、**お話しください。しもべは聞いております。(Iサムエル3:10)**

イエスの御名によって。アーメン。

今日はパワフルな人生の原則についてお話しします。

その原則の殆どは、クリスチャン生活に於いて、取るに足りないか、重要ではないと軽視されています。

私が話すのは、人生の手本となる人が与える影響についてで、それは、私たちの人生のあり方を決定づける力なのですが、クリスチャンは十分な注意を払っていません。

実際、私たちが人生の先輩とか手本として見ている人たちや、圧倒的な影響力を持つ人々は、本当に私たちの将来や運命を決定づける可能性があるのだ、ということに気づいていない。

これは、かなりきつい言い方であることは分かっています。

しかしそれが、今日の聖句でパウロが強調していることで、それは当然のことなのです。

彼はピリピ教会のクリスチャンに、自分に倣うように言っています。

すごく大胆ですよ。

もし私が誰かに、私に倣うように言うとしたら、どちらかというところな風になります。

Do as I say, not as I do. 「私が行う通りにするのではなく、私が言う通りにしなさい。」

皆さん、子供たちにそう言いませんか？

問題なのは、教えられたことよりも、目にしていることの方が重要だということ。

11歳の娘サビアがもっと幼かった時に、私の手の動きを真似し始めたことが忘れられません。

ある時期、私はニュースを見ていて、テレビに向かって怒鳴り、ちょっと…手で表現していたのです。

「なぜ、そんなに盲目でいられるのか！」と。

そして、幼い無垢な娘を見たら、彼女は私と同じように手を動かして、「なぜそんな○△○△ x x x ~ ~」  
「ああ！ 私は何ということをして…!!」  
その時、悔い改めました。

パウロは 17 節で更に踏み込んでいます。

**17 兄弟たち。私に倣う者となってください。**

**また、あなたがたと同じように私たちを手本として歩んでいる人たちに、目を留めてください。**

彼は自分に倣うように言っているだけでなく、「あなたが目にしている私の生き方と同じように生きなさい。」

「あなたが目にしている私の行動を真似なさい。」

「私がキリストと共に歩むのを目にしている通り、キリストと共に歩みなさい。」

「私が手本です。私があるあなたの人生の手本として、影響を及ぼす者です。」

パウロは何をしているのでしょうか。

彼は自分自身を掲げ、自分の人生を掲げて、神に完全に献げる人生の生きた手本になっているのです。

木曜日夜に詩篇を学んでいますが、詩篇 86 篇はダビデの祈りで素晴らしい詩です。

ダビデが引き離されることない自分の心を語っています。

引き離されない心。

神の御心に忠実で、御心にととても近く、御心を懸命に追い求める魂。

それがダビデでした。イスラエルの甘美な詩人。

彼は御心になかった、神から離れない人でした。

パウロはピリピ教会に言っていることを認めるような形で、コリント教会に言っています。

**私がキリストに倣う者であるように、あなたがたも私に倣う者でありなさい。(Iコリント 11:1)**

別の言い方をすると、「私の真似をしなさい。」「私を真似しなさい。」「私が行うことをしなさい。」

パウロはうぬぼれているのでしょうか。

彼自身の義でしょうか。

厚かましくも、誰かに「おい、私を見倣え!」「私の生き方が基準だ。これが標準だ!」などと言っているのでしょうか。

勘違いしないで下さい。

これは自己義でも、自慢でも、傲慢でもありません。

パウロがこのように言っている理由は 18 節と 19 節。

**18 というのは、私はたびたびあなたがたに言ってきたし、今も涙ながらに言うのですが、多くの人がキリストの十字架の敵として歩んでいるからです。**

**19 その人たちの最後は滅びです。**

**彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです。**

今私たちがしたように、本文を読んでも、ほぼ見逃してしまいそうになるのですが、ここに書いてあるのです。しかもここだけではなく、たくさんあるパウロの書簡の至るところに表されていて、使徒の働きの手紙でも、彼がどれほど泣き叫んでいたことか。

他に、何と言って良いのか分かりません。

使徒の働き 20 章。

パウロは非常にオープンに、正直に語りました。

「3 年間もの間、昼も夜も一日中、毎日毎晩泣き叫んでいた。」

それは、彼が育てた教会、ピリピ教会もその一つですが、自分がそれらの教会を去った後、彼らの中に羊（信者）の皮を被った狼たちが来ることを、そして、羊の群れが守られないことを知っていたからです。

皆さん、使徒パウロを理解しなければなりません。

彼は間違いなく強い人です。

それは主にあっての強さ、主の御力によるのであり、彼自身の強さではありません。

主にあって、**私が弱い時にこそ、私は強いからです。(IIコリント 12:10b)**

そして彼は、大変情熱的な人でした。

とても敏感な人だったとも言えるし、神の御心を求める心を持っていた人でした。

彼が心を痛めたのは、人々が神から離れるなら、神の御心が傷つくということが彼には分かっていたからです。

神が心を痛める。

これが、まさしくパウロの心を痛めることで、涙が溢れ流れる事そのものだったのです。

私はパウロが、チャールズ・スポルジョンの言う“涙の祈り”をしていたと思います。

言葉もなく、ただ涙が流れ落ちる。

「ああ、神よ…!!」

呻きながら、喘ぎながら、むせび、泣き叫んでいる。

彼が泣き叫んだのは、驚くことに、キリストの十字架の敵が原因で、彼はそのために悲しんでいました。

皆さん、パウロが未信者のことを言っていると思っははいけません。

これは、教会宛てに書かれた手紙ですよ。

そう考えると納得がいくと思います。

確かに、パウロは未信者のことも気にかけていました。

しかし、この手紙は教会宛てに書かれているのです。

パウロはテモテに、後の時代を知らせる兆候を 19 のリストにして手紙を書きました。

彼は今の世について話しをしているのではありません。

この世界が、まるで改心したように生きることを期待するのは無理です。

していないから。

これは、十字架の敵となったクリスチャンに対する注意勧告、非難なのです。

パウロは、このことに心を痛めていました。

彼らは主と歩んでいると主張しながら、主を敵とするクリスチャンとして生きているのです。

どうすれば、そんなことができるのか。

(クリスチャンに向かって) **節操のない者たち。世を愛することは神に敵対することだと分からないのですか。**

**世の友になりたいと思う者はだれでも、自分を神の敵としているのです。(ヤコブ 4:4)**

彼はクリスチャンに言っています。

「本当に、本当に、本当に注意しなさい。」

「あなた方が世と、世の事と、世のやり方とあまりにも仲良く、心地良く、親しくなるなら、クリスチャンでありながら神の敵、十字架の敵になる可能性があるのです。」

「あなたは世とあまりにも親しくなり、ここに居心地の良さを感じて、自ら神の敵になっているのです。」

「先生は、クリスチャンが神の敵になることは可能だと言うのですか。」

いいえ、私は言いません。御言葉が言っているのです。

私は賢ぶるつもりも、ふざけるつもりも、かわい子ぶるつもりもありません。

御言葉がそう言っているのです。

**マタイ 16:24-26**

イエスが弟子たち、特にトマスに答えて言っています。

## 24 それからイエスは弟子たちに言われた。

「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい。

私たちはよく 24 節を引用するのでこの部分だけを見ますが、この次にイエスが言っていることに注目です。

25 自分のいのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者はそれを見出すのです。

26 人は、たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら何の益があるのでしょうか。

そのいのちを買い戻すのに、人は何を差し出せばよいのでしょうか。」

よく聞いて下さい。

十字架の敵が言うのは「自分自身のために生きろ！」

イエスが言っているのは「自分の十字架を負い、自分に死になさい。」

事実、あなたが自分の十字架を負わないなら、すなわち、自分自身を捨て、自分自身に死ななければ、イエスの弟子になることはできません。

「それはかなり厳しいですね。」

そうしなければならないのです！

何が献げられているか知らないのですか。

十字架の敵になる人は、“過度にこの世の事に影響される人”で“この世に底なしの欲求を持っている人”です。

でも、あなたは肉体の領域で、自分の欲求を本当に変えることができる。

霊の領域に於いても同様で、それは事実です。

この中で蛋白質の…アレ、砂糖やデンプンや炭水化物を制限するのを試したことがある人、どれくらいいますか。

私が過去にそれをした時には、それまでは甘党だったのに、甘い物が欲しくなくなりました。

ところで、なぜ夜になると甘い物を食べたくなるのでしょうか。

セブンイレブンに行くことを考えてしまう。それが近すぎるのが問題で、この近くにもありますね。

私は、これは天国のようだとも思うのですが、バターフィンガーアイスクリームを手にしたような、ね。

ただ皆さんに告白しているだけですよ。

でも私がこれをするといつも皆さんは…

数年前に、私が、チーズケーキが大好きだと言った時、1年分のチーズケーキを頂いたと思います。

どうか、それをなさらないように。

それをするなら、妻が電話しますよ。皆さん、妻から電話してもらいたくないでしょう。

先程の愚かな比較表現を許して下さい。

でもポイントは分かっていただけかと思います。

何かをすればするほど、何かを欲する。

そうして、その欲求を満たそうとする。

箴言を考えると、

**直ぐな人は、その正しさによって救い出され、裏切り者は、自分の欲によって捕らえられる。(箴言 11:6)**

正義を求めれば、正義があなたを追い求め、邪悪を求めれば、邪悪があなたを追い求める。

自分が求めるものが自分を捕らえる。

だから何が起るかというと、この世に酔って心地良くなり始めると、この世で、この世が提供するものを取り込んでしまうのです。

すると、更に欲求が増大していきます。

これが、パウロが 19 節で言っている「**彼らは欲望を神とし**」の欲望、世の欲望、肉の欲望のことです。

また「**彼らは(天のことではなく)地上のことだけを考える者たちです。**」とも言いました。

**その人たちの最後は滅びです。**

**彼らは欲望を神とし、恥ずべきものを栄光として、地上のことだけを考える者たちです。(ピリピ 3:19)**

箴言には、**彼はその欲望が示すとおりの人間だ。(箴言 23:7 新共同訳)**

イザヤは言いました。

**志の堅固な者を、あなたは全き平安のうちに守られます。その人があなたに信頼しているからです。(イザヤ 26:3)**

4章に行くのが本当に楽しみです。

そこでは特に、思考の力について学びますが、4章8節でパウロは私たちが考えるべきことをリストにしています。

ところで、思考の中は戦いの場です。

だからパウロは真正面から伝えました。

「十字架の敵である人々は、この地上のことだけを考えるので、十字架の敵になったのだ。」

その思考は世的で、彼らの神は自分の欲望、彼らの栄光は自身の恥なのです。

そして問題は、「**その人たちの最後は滅びです。**」

これは箴言にある通りです。

**人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道（破滅）がある。(箴言 14:12)**

滅びはどのように見え、或いは聞こえるのでしょうか。

非常に良いように感じるものが、いかに間違いであるか。

罪は、一時の間は楽しいもの。しかし最終的には、苦い結末。

正しいように思えるかもしれない。

正しいように感じるかもしれない。

正しいように見えるかもしれない。

正しいように聞こえるかもしれない。

でも、そうではない。

私が個人的に信じているのは、クリスチャン生活で最も巧妙な危険の1つが、肉的なことと世の影響です。

巧妙と言った理由は、気づいていようがまいが、私たちは皆、誰かを手本にして、その人に従うから。

自分の人生に影響を与えることを良しとした人を、あなたは手本にして従うからです。

しかし、誰を手本に従っているかが問題ではなく、手本にしている人が神に従っているかいないか、が問題です。

人生に大きな影響をもたらす役割を、あなたは誰に与えるのですか。

## I コリント 15:33-34

**33 惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。**

そしてパウロはピリピ教会に言ったことを、繰り返すようにして非常に強く言っています。

**34a 目を覚まして正しい生活を送り、罪を犯さないようにしなさい。**

これはクリスチャンに言っているのですよ！

コリント教会について知っている事実は、それが肉的な教会だということ。

「肉の思いにとらわれている。世にとらわれている！」

パウロは懇願しているのです。

「目を覚ましてそれを止めなさい！ 止めなさい！ 止めなさい！」

**34b 神について無知な人たちがいます。私はあなたがたを恥じ入らせるために言っているのです。**

これは中東のアラビア語では「———」（恥を知れ！）

今日の中東で、誰かに「恥を知れ！」と言う時の究極の言葉です。

それが、パウロが言っていること。

「恥を知れ！ 目を覚ませ！ 何を考えているのか！」

「私は彼らに伝道しているのさ。」

いや、残念だけどあなたはそうではない。残念!!

あなたは、自分が誰かに影響を与えていると思っていますが、悪いけど、あなたは影響を受けている側です。

Ⅱ 歴代誌 10:3-14 に、悪い友人を持つと、いかに良い習慣が損なわれるかについての興味深い記述があります。私たちは付き合っている人によって変わるのですよ。

“朱に交われれば赤くなる”という諺を知っているでしょう。

これが私の中ではベストのたとえです。気に入らなければすみません。

ずいぶん前に車の仕事をしていた時、私はジプシーと友だちになって一緒に仕事をしました。

とても興味深いことに、そのことでキリストにある兄弟姉妹から大変厳しい批判をされたのです。

「どんな神経してるの？」

私は彼に手本を示し、影響を与えていたのに。

これは本土にいた頃のことで、私は戻って、…何年前か忘れましたが、多分 2011 年だったと思います。

カルバリーチャペル・スポケーンでメッセージをしました。

話し終えるとある若者が近づいて来て、「あなたは、私の父の知り合いです。」と言うのです。

私は彼を見つめました。

何年もの間、会っていないし、勿論彼は大人になっている。

でも気づきました。あのジプシーの息子。

父親がキリストに救われたように、息子もキリストに立ち返っていた！

それが違い。違いなのです。

私たちは手紙、生きている書簡です。

そのことを認識していますか。

人々は私たちの人生の手紙を読んでいて、そうして、自分自身に 2 つの問いを投げかけます。

① これらは真実なのか。

② これは効果があるのか。

彼らは、それが真実であることを望んでおり、効果をもたらすことを望んでいるのです。

なぜなら、それがあなたに真実で、効果があるのなら、それは、彼らにとっても真実であり、効果があり得ることを意味するから。

それを確かめるために、人々はあなたの人生を見ており、あなたの人生の書簡を読んでいるのです。

## Ⅱ 歴代誌 10:3-14

レハブアムという若者、彼はソロモン王の息子で、ダビデ王の孫です。

ソロモン王の死後、彼は跡を継いで王になりました。

ヤロブアムと全イスラエルは、レハブアムが王になったと聞いてやって来て、「自分たちの労働を軽くしてほしい」と頼みました。

大変過酷な労働と重税が課せられていたからです。

そこでレハブアムは、「3 日経ったら、私の所に戻って来なさい。」と言いました。

そして彼は、アドバイスをもらうため、まず、父ソロモンの存命中に仕えていた長老たちに相談します。

長老たちは、この若くて影響力を持った王に言いました。

**7 「もし、あなたがこの民に優しくし、彼らに好意を示し、彼らに親切なことばをかけてやるなら、彼らはいつまでもあなたのしもべとなるでしょう。」**

自分の指揮下にいる人々に、神が自分に与えた権威の下にいる人々に、情け深く、親切に接する。

これは、現在のリーダーのための御言葉です。

**8** しかし、王は（残念なことに）この長老たちが与えた助言を退け、自分とともに育ち、自分に仕えている若者たちにこう相談した。

彼らのレハブアム王への助言は、

**14** 「私はおまえたちのくびきを重くする。

**私はそれをもっと重くする。私の父がおまえたちをむちで懲らしめたのなら、私はサソリを使う。」**

どうでしょう…

この決定が、若いレハブアム王の終わりの始まりとなり、最終的に、王国から逃げ出すこととなります。

この決断に続く結果に苦しむことになったのです。

興味深いことにⅡ歴代誌 12 章に、レハブアム王は、後の人生で目を覚ましたと書かれています。

パウロが書いている通りです。

**王がへりくだったとき、主の怒りは彼を離れ、主は徹底的に滅ぼすことはされなかった。（Ⅱ歴代誌 12:2a）**

つまりこの王は、徹底的に滅ぼされる寸前だったということです。

パウロが言っているのは「その人たちの最後は滅びです。」最後は滅び。

ところが悲しいことに、レハブアム王は人生の最後に再び、

**彼は悪事を行った。心を定めて主を求めることをしなかったのである。（Ⅱ歴代誌 12:14）**

旧約聖書は、私たちが学ぶべき手本であると言われています。

皆さんも私と同じだと思いますが、私は誰かから学ぶ方がよっぽどいいと思っています。

私は自分の失敗から学ぶよりも、皆さんの失敗から学ぶ方がずっといい。

自分の人生に起こることよりも、他人の人生に起こることを見る方がよっぽどいいと思います。

そのために、私たちには旧約聖書があるのです。

いくら強調しても足りないと思いますが、これは非常に重要なことです。

すなわち、自分の人生に影響を与えるのを誰に許すのか、助言者を選ぶ時は、十分に注意して、祈って決めるということです。

興味深いと思いませんか。

もしレハブアム王が、父の時代の賢明な長老たちに心を留めていたなら、彼の時代、彼の統治は祝福されたでしょう。

でも、そうではなかった。

皆さん、イスラエルの歴史上全ての王の中で、「主の御心になかったことをした」と言われた王はたったの 9 人。

北イスラエル王国の中には 1 人もいません。

全員が南ユダ王国の王です。

あれだけの王がいて、たったの 9 人。

「この人たちは、主の御心になかった人生を生きた。」と言われたいと願います。

神を喜ばせたいと思いませんか。

神を祝福したくないですか。

今朝ここに来ながら考えていたのは、というより、木曜夜の詩篇の学びの前のこと。

私たちはいつも主に祈って言います。

「私を祝福して下さい。」「これを祝福して下さい。」「あれを祝福して下さい。」

しかし、私たちはどれくらい言うのでしょうか。

「主よ、今日、あなたを祝福したいです。」「主よ、私はあなたにとっての祝福になりたいです。」

「神よ、あなたの心を祝福したいのです。」と。

では、3つの質問で締めくくります。

私自身を含めた全員が、というより多分特に私が、この事について自分に問いかけるべきだと思います。

① 自分の人生に最大の影響を与えているのは誰か。

これについては、本当に考えて下さい。

② その人は神に従わない手本か、神に従う手本か。

次は、ちょっと思慮深くなければなりませんし、祈ることも必要な宿題です。

③ その人が私の人生にもう影響を及ぼさないなら、私の人生はどのように、またどれほど早く変化するのか。

これはどちらもあり得ます。

混乱させるつもりはありませんが、考えてみて下さい。

私の人生から、神に従っている人の影響がなくなったなら、どのように変わるだろうか。

逆に、私の人生から、あの神に従っていない人の影響がなくなれば、どれほど良くなり、またいかに早く良くなるか。

今、皆さんは誰かのことを思っているでしょう。

それは、神に従っている人であれ、従っていない人であれ、あなたに大きな影響と力をもたらした人のはずです。

或いは、それは人ではなく、何かかもしれません。

人生に向かって話すことをあなたが許可しているもの。

人生に対して支配的な影響を与えるもの。

あなたはその何かに従っていて、それがあなたの心を引き離しているのです。

あなたは主を愛し、主と共に歩んでいます。主を知っています。

しかし、あなたと聖霊との間はどうか、真実は明らかです。

この祈りを献げると良いでしょう。

「主よ、私の心を探り、私の心あなたを知り、あなたを愛し、あなたの声を聞くことから引き離す人やものがないかどうかを見て下さい。私の心は分断されていませんか。(詩篇 139:23-24)」

祈りましょう。

天のお父様、大変難しい教義ですが、とても必要な内容でした。

私たちがこのことについてあまり話さないのには、多分理由があるのです。

主よ、聖霊が咎めるのではなく、むしろ罪を示して下さいありがとうございます。

箴言に**柔らかな舌は骨を砕く(箴言 25:15a)**とあるように、聖霊のとても優しい、静かな小さい声、その囁きが私たちを捕えました。

あなたは、私たちが人生に力と影響を与えてしまったもの、更には人を指摘しておられるのでしょうか。

主よ、あなたに従いたい。あなたは完全な手本ですから。

イエスの御名によって。

アーメン。

~~~~~  
 「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル 4:7

メッセージ by JD Farag 牧師

カルバリーチャペルカネオヘ <http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 Rumi